

現行計画の評価について

基本目標の達成度及び実施・検討すべき施策等の実施状況や資料 2 の調査結果を踏まえ、別紙【評価シート】のとおり評価・課題等の分析を行った。

1. 基本目標の評価

基本目標	R2 目標値	R1 見込量	乖離幅	評価
ごみ総量（生活ごみと事業ごみ）	360,000 t	374,000 t	3.8%	○
1人1日当たりの家庭ごみ排出量	450 g	461 g	2.4%	○
リサイクル率	35%	29%	▲17.1%	△
燃やすごみの量	305,000 t	323,000 t	5.9%	△

東日本大震災以降も人口増加が続いている中、ごみ減量キャンペーンの実施等により、「ごみ総量」及び「1人1日当たりの家庭ごみ排出量」については、目標を概ね達成する見込みである。

一方、ペーパーレス化や養豚事業の縮減等により、資源化量実績と目標値との乖離が大きくなっており、リサイクル率や燃やすごみの量の目標達成は困難な状況である。

2. 実施・検討すべき施策の評価

(1) 資源循環都市づくり

	評価
①生活ごみの減量・リサイクルの推進	○
②事業ごみの減量・リサイクルの推進	◎
③ごみの適正処理体制の確立	○

生ごみの減量・リサイクル、再生可能な紙類の分別徹底、清掃工場等のごみ処分手数料の引き上げ等の取り組みを進めた。

引き続き再生可能な紙類の分別徹底に取り組むほか、フードドライブ等の食品ロス削減に向けた周知浸透や、バイオマスリサイクルの推進等が課題である。

(2) 低炭素都市づくり	評価
①燃やすごみの量の削減	△
②収集運搬における温室効果ガスの低減	○
③中間処理・最終処分における温室効果ガスの低減	◎
④温室効果ガス排出量の定量評価手法の導入の検討	△

資源物の分別徹底や家庭系剪定枝等の新たな資源化事業等による燃やすごみの削減や、焼却工場における蒸気の温水プールへの供給、自家発電等、温室効果ガスの削減を進めた。

ワンウェイプラスチックの削減等により引き続き燃やすごみの削減を進めるほか、より環境負荷の少ない処理施設の設備や温室効果ガス排出量の定量評価等について検討を進めていく必要がある。

(3) 市民・事業者・市の連携等	評価
①実践につながりやすい広報・啓発事業の展開	◎
②地域課題の解決に向けた取組みの推進	◎
③ごみ減量・リサイクルの推進に係る人・組織づくり	○

「ワケアップ！仙台」キャンペーンや「エコフェスタ」の開催等、三者協働によるごみ減量・リサイクルの取り組みを進めた。このほか、外国人住民への周知や、ごみ出し困難な世帯を支援する団体への助成等、地域課題の解決に向けた取り組みを進めた。

引き続き三者協働による取り組みや、ごみ出し支援等の少子高齢化に伴う課題への対応を進めるほか、クリーン仙台推進員等との連携や、ごみ減量・リサイクルの推進に向け、若者の参加を促す仕組みづくり等を進める必要がある。

3. 処理体制の整備計画（評価：○）

焼却工場の長寿命化計画の策定とそれに基づく基幹改良工事等を実施したほか、市民がより安全にスプレー缶を排出できる処理体制の整備を進めた。

引き続き長寿命化計画に基づく処理施設の安定稼働を確保するほか、老朽化が進む市堆肥化センターについての検討を進める必要がある。

4. 処理体制（評価：○）

安定したサービス提供に向け、清掃工場へのごみの搬入調整や複数年の家庭ごみ等収集運搬業務委託を実施したほか、事業ごみについては、展開検査装置の導入による適正排出指導を強化した。

引き続き安定的・効率的なごみ処理体制を確保するとともに、廃棄物エネルギーの活用など環境負荷の少ない処理体制の構築が必要である。